

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	第3回武蔵村山市子ども・子育て会議
開 催 日 時	平成26年1月27日(月) 午前10時00分～午前11時40分
開 催 場 所	武蔵村山市役所301会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：佐々委員(会長)、布田委員(副会長)、志茂委員、乙幡委員、大友委員、田江委員、増田委員、篠崎委員、齊藤委員、安彦委員 欠席者：染谷委員、小幡委員 事務局：小峯健康福祉部長、高野子育て支援課長、加藤保育グループ主査、古川保育グループ主査、鈴木保育グループ主任
議 題	議題 (1) ニーズ調査の分析結果について
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	議題(1)について 次回会議において詳細な分析結果報告と調査報告書案を提示し、各委員による意見を基に、事業計画についての方向性を検討する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	<p>1 開会</p> <p>○小峰健康福祉部長よりあいさつ (小峰健康福祉部長) 子ども・子育て会議では、新しく策定いたします「子ども・子育て支援事業計画」の策定の基礎となるニーズ調査の集計結果が出ましたので、それに伴いまして事業計画の方向性をご審議いただきたい。委員の皆様の幅広い、忌憚のないご意見をいただきたく、よろしくお願いたします。</p> <p>○佐々会長よりあいさつ (佐々会長) 国の子ども・子育て会議も毎月のように行われており、その内容も修正箇所が赤字になって出てきていて、3月までかなりの方向性を出すということだと聞いている。そういった事を受けて、都と市が同時並行的に進めて行かなくてはならない。今回は大まかな報告ということだが、それらを見ながら委員の皆さんのご意見を集約しながら、計画に反映させていただいて、計画のとりまとめを進めたい。</p> <p>2 報告</p> <p>(1) 第2回子ども・子育て会議の会議録について ○事務局より、第2回子ども・子育て会議の会議録について説明が行われた。※資料1</p> <p>【質疑応答】 (佐々会長) この会議録は武蔵村山市のホームページに載せるものなのか。 (事務局) 現在、市のホームページに子ども・子育て会議の情報は掲載していないが、今後会議録をホームページに掲載して、市民の皆さんに見ていただく形をとっていく。</p>

(佐々会長) 今現在、子ども・子育て会議が開催されているという事については、ホームページに記載されているのか。

(事務局) 会議の開催自体は記載している。

(佐々会長) 会議録等がいずれ追加でホームページに掲載するとの文言があれば、市民の方も了解できるので、お願いしたい。

(2) 子ども関連福祉サービス事業の概要について

○事務局より、子ども関連福祉サービス事業の概要について説明が行われた。※資料2

(事務局) 子育て支援課で行っている、子育て支援サービスの一部を資料として用意した。これらの事業の中に、今後、支援事業計画で取り組むべき事業がある。

【質疑応答】

(佐々会長) 子育て支援事業の対象者、補助、サービス内容や利用率の基礎資料として、これから先の計画策定に繋がってくる。資料2のp16にファミリー・サポート・センターの実績として各会員数が記載されているが、サービスを提供した回数が必要ではないか。サポートの実施件数とサービスの内容、保育園の一時預かりとの対象者の違いはどうか。ファミリー・サポート・センター事業を子育て支援事業に組み込むための検討材料として、資料の開示をお願いしたい。

(事務局) ファミリー・サポート・センター事業の実施件数や利用内容についての資料を次回提出する。

(佐々会長) 母子家庭（ひとり親家庭）の親が相談するための相談事業の利用率や事業内容についての情報が欲しい。

(事務局) 母子相談員として2名、子育て支援課において相談業務を行っている。事業内容や実績について次回提示したい。

(委員) 資料2のp9の子どもカフェを運営しているユニティー・M USAMURAは母親の集まりという事だが、この組織はどういった事業形態か。

(事務局) NPO法人などの法人ではなく、法人に準ずる団体で、母親たちで設立した任意の団体である。

(佐々会長) 子どもカフェ運営事業の指定管理者として、何年かごとに事業者や事業自体の見直しがあるのか。

(事務局) 実際には指定管理という事ではなく、委託という形になっている。市が子どもカフェ事業に対して運営費の一部を補助している事業である。委託期間というものは実際にはなく、事業をやっている間、市として補助している事業である。

(3) 地域の概要について

- 事務局より、地域の概要について説明が行われた。
- ※資料3、資料4、資料5

【質疑応答】

(委員) 資料3のp3では、平成22年度の生産年齢人口比率は63.3%で、“生産人口は急速に減少”とあるが、資料4を見ると平成23年度の実年齢人口比率は63.6%で微増している。資料3と資料4の整合性がとれていないのではないかと。

(事務局) 資料3の数値は国勢調査を基にしていて、資料4は住民基本台帳人口及び外国人登録人口を基にしている。数値に整合性については調査して報告したい。

(佐々会長) 国勢調査は平成22年度のもので最新で、住民基本台帳は毎年総務省が総計しているものだが、団塊の世代がすでに65歳以上になっていて、これから老年人口が急激に増えることが予想される。年少人口が減少していく一方、老年人口が増えるということは、高齢者に対する福祉の需要と介護や看護などの費用負担が出てくる。全体の予算の中からどの年齢層に予算を回すのかを考えたとき、この年齢3区分別人口比率が重要になってくる。今回の計画は平成27年度から実施するが、その頃には第1次ベビーブーム世代の方々は老年人口に突入しており、そのあとの人たちも次々老年になっていく。年少人口に関しては人口フレームを用いておおよその数値を推計したものが資料4である。今計画の対象となる児童、就学前から学童期までの児童、に対する検討をする際、資料4の人口推計が基本となる。また、資料3のp1で1世帯当たりの人員数が減少しているとあるが、離婚率が上がると世帯人数がどう変わっていったのかを見る必要がある。P5の離婚件数のデータを見て、離婚した母子家庭の経済状況などで、保育所の入所の要件などにも繋がってくる。また、生活保護の受給率も重要な要素になる。そういった家庭の子どもたちは、保育所入所の優先順位が上がるということも考えられる。そういう観点から、武蔵村山市の生活保護の受給率を地域の概要に入れることは可能かと。

(事務局) 生活保護の受給率や母子家庭の推移や家庭数についての資料を追加資料として出す。

3 議題

(1) ニーズの分析結果について

- 事務局より、ニーズの結果の概略について説明が行われた。
- ※資料6、資料7、資料8及びアンケート調査票（就学前・小学生）

【質疑応答】

(委員) 資料6のp6にある棒グラフの一番上の項目が括弧のせいで切れている。括弧は取ってもよいのではないかと。

(事務局) 検討の上修正する。

(佐々会長) 資料6のp2「子育てに最も影響すると思う環境」との設問で、就学前児童調査では保育所が多いとあるが、複数の子育て施設を掛け持ちしている家庭はあまりなく、普通は自分の子どもを通わせている施設を答える。そういった点から子育て施設の比率を加算すると、70.5%といった高い数字が出る。同じ設問の小学生調査では、子育て施設が小学校に絞られるので73.0%という数字が出ていて、両調査とも、子育て施設が子育て最も影響するとの数値が出ている。しかし、就学前児童調査で保育所の39.1%だけを見てしまうと、幼稚園や認定こども園などの施設への信頼度が薄いという印象を与えてしまうので、分析の記述を修正して欲しい。このことはp3の「気軽に相談できる先」という質問についても同様で、保育士や幼稚園教諭など選択肢が分散しているが、p4の「定期的に利用している保育事業」では認可保育所が多く、保育所に子どもを通わせている保護者が幼稚園に通わせている保護者より多いということなので、単純に数値の高い保育士だけに焦点を当てると、保護者の受け止め方と違ってくるのではないかと。

(事務局) 検討する。

(佐々会長) 資料6のp7で、「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思うか」という設問に6割の人が肯定的な評価しているが、逆にみると3分の1強の人が否定的に評価している。数値結果の裏表を見た場合についてきちんと考察して欲しい。

(事務局) 自由意見を含めて報告書の中に取り入れていきたい。

(佐々会長) 回答率は平成21年度の次世代育成行動計画策定時よりも上がったということだが、目標としていた回答率には達していないということはどう捉えているか。

(事務局) 目標の回答率は50%が、今回は就学前児童調査で42.6%、小学生調査で44.9%だった。東京都の自治体でも区部では50%を超えているところもあり、武蔵村山市としては回答率50%を超えられなかったのは残念だ。

(佐々会長) 調査票の分量が多く、回答し難いではなかったか。

(委員) 設問が多すぎるとの苦情はあったのか。武蔵村山市は選挙の投票率も悪く、住民性との関わりがあるのかもしれない。

(事務局) 直接的な苦情はなかった。自由意見の中でもあまりなかった。

(委員) 武蔵村山市は高齢者についての調査も設問が多すぎる。次の調査ではもっと簡潔に回答しやすく調査票を作るべきだ。

(事務局) 東京都の基本調査案の設問が多く、各市町村の事務局としても、もう少し簡潔にして欲しいとの要望を出していた。

	<p>4 その他</p> <p>○事務局より、次回会議の開催日程について説明が行われた。</p> <p>(事務局) 次回開催は、平成26年2月24日(月)午前10時からを予定している。次回会議では、アンケート調査の分析結果の報告と今後の事業計画の方向性について検討していただきたい。また武蔵村山市の人口動態の資料を示す予定である。さらに認定子ども園や小規模事業者や事業所内保育事業者等、今後予定されている施設サービスについての報告も行いたいと考えている。</p> <p>(佐々会長) 市の制度として、子育て支援事業にこういったものがあるのかと、次回の分析結果を合わせて検討して、次回の会議で意見をいただきたい。</p> <p>(委員) 保育園の園長会の意見を集約したものを、会議のスケジュール的にいつごろ出せばいいのか。</p> <p>(事務局) 新年度の初頭、4～5月辺りに出していただきたい。</p> <p>(佐々会長) 意見自体は早めに出しても構わないのでは。審議は適切な時期に行うが、各委員の意見は素朴な疑問でも大事なので、是非出していただきたい。団体の代表、あるいは個人の意見が直に政策に反映されるとは限らず、成果が必ずしも出るわけではないが、意見として出すこと自体が重要なので、団体の代表者や個人を問わず、各委員の意見を会長としてお願いしたい。</p> <p>(委員) 子育てサポートプロジェクトを行っているが、この会議の資料をプロジェクトのメンバーに公開して、他の人の意見を求めてこの会議に持ってきてもいいか。</p> <p>(事務局) この会議自体が公開されており、資料も公開の対象なので、勉強会などで他のお母さん・お父さんたちと話し合いをする材料として、活用していただきたい。</p> <p>5 閉会</p>
--	---

配布資料	<p>○第2回子ども・子育て会議の会議録・・・・・・・・・・資料1</p> <p>○子ども関連福祉サービス事業・・・・・・・・・・資料2</p> <p>○地域の概要について・・・・・・・・・・資料3</p> <p>○平成24年度に策定する計画等の推計人口等について・・・・・・・・・・資料4</p> <p>○武蔵村山市0歳児～5歳児の人口推移・・・・・・・・・・資料5</p> <p>○アンケート(ニーズ)調査実施概要・・・・・・・・・・資料6</p> <p>○子ども・子育て支援事業計画等アンケート調査単純集計表(就学前)・・・・資料7</p> <p>○子ども・子育て支援事業計画等アンケート調査単純集計表(小学生)・・・・資料8</p> <p>○武蔵村山市子ども・子育て支援事業計画等アンケート調査(就学前)</p> <p>○武蔵村山市子ども・子育て支援事業計画等アンケート調査(小学生)</p>
------	--

会議の公開・非公開の別	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"></div>
-------------	--

傍聴者： 0 人

会議録の開示・非開示の別	<input type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等：)
--------------	--

庶務担当課	健康福祉部 子育て支援課 (内線：182)
-------	------------------------

(日本工業規格A列4番)